

中学校第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年○月○日

対 象

授業者

1 単元名 短歌の世界を味わう 想像から鑑賞へ（『中学生の国語 2年』三省堂）

2 単元の目標

- (1) 情景を想像しながら短歌を味わう。（Cア）
- (2) 短歌を鑑賞をするときの観点を知る。（Cウ）
- (3) 観点をいかして短歌の鑑賞をする。（Cウ）

<学習指導要領との関連>

C 「読むこと」(1)

ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。（語句の意味の理解）

ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめること。

（自分の考えの形成）

〔言語活動例〕(2)ア 詩歌や物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

3 単元の評価規準

観 点	ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・短歌の中に描かれる心情や情景の描写の仕方について、自分の考えをまとめようとしている。	・表現の工夫に気づき、短歌の世界を味わっている。 ・短歌に描かれた心情や情景について、知識や体験を関連付けて自分の考えをもっている。	・短歌の中での表現技法や語句の意味を理解している。
学習活動に即した具体的な評価規準	①短歌の基本的な形式や決まりについて、理解しようとしている。 ②心情や情景の描写を基に鑑賞しようとしている。	①表現の仕方について、作者の意図を考えて、作品を読んでいる。 ②語句や表現から短歌に描かれていた情景や心情を読み取っている。 ③短歌に描かれた情景や心情について、知識や体験を根拠に自分の考えをまとめている。	①句切れ、反復法、体言止め、対比などの表現技法を理解している。 ②短歌の中で語句が表す内容を理解している。

4 指導観

- (1) 単元観……文学教材の中でも、短歌（や俳句）は、その詩型のもつ表現の特徴や表現技法、文語などの知識を、鑑賞のために必要とする。そのため、解釈やその特徴の理解の段階に、学習の多くを費やすことになってしまう。生徒に自分の力で短歌のよさを味わわせ、それを鑑賞にまで導くためには、その短歌の世界を十分に想像させること、鑑賞の観点をもたせることの両方が必要である。短歌の情景の想像から鑑賞までを、鑑賞の観点に気付かせながら意欲的に学習できるようにすることをねらいとした単元である。
- (2) 教材観……明治から平成までの作品について、特に語釈や解説文を付けずに9首を取り上げ、「句切れ」、「比喩」、「対比」、「作者」、「連作」という鑑賞の手がかりを学習する。本教材では、事前に細かく知識を与えずに自由に想像し、味わう楽しさを感じるとともに、自由に想像するのではなく、鑑賞には観点（説得力ある理由）が必要なことを、学ばせたい。第3学年での学習「批評する」につなげるためにも、第2学年で鑑賞の経験とその観点を学習することは大切である。

5 単元の指導計画と評価計画（6時間扱い）

	ねらい	学習活動・学習内容	学習活動に則した具体的な評価規準
第1時 想像して味わう	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標を知る。 短歌の基本的な形式などを理解する。 短歌のリズムを理解する。 短歌の情景を想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標と単元全体の学習の流れを確認する。 資料集を見ながら、近代短歌の始まり、正岡子規、石川啄木について理解する。 教科書の短歌を音読する。 「白鳥」、「列車」などの表現から情景や作者を想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短歌の形式などを理解している。 ウ① [観察] ○作者の心情や情景を想像している。 ア①ウ② [ワークシート]
第2時 鑑賞の仕方を 知る	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の三つの柱（情景・心情・よさ）を押さえる。 表現技法について確認する。 教科書と資料の短歌（25首）を読み、鑑賞したい短歌を選び、よさを短く書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「白鳥」、「列車」などの表現から情景を具体的に想像し、心情を考え合う。 短歌の情景や心情を想像できることが鑑賞につながることに気付く。 鑑賞の要点として、「比喩」、「対比」といった表現技法があることを理解する。 鑑賞したい順に三首選び、付せんに一種ずつ「よさ」を短い言葉で書き、黒板に貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作者の心情や情景を想像できる。 ア①ウ② [ワークシート] ○比喩、対比など表現技法を理解している。 ウ② [ワークシート、観察]
第3時 鑑賞の仕方を 知る	<ul style="list-style-type: none"> 前時の「白鳥」、「列車」などの鑑賞を読み合い、内容や表現のよいところを学び合う。 表現技法の工夫をとらえた鑑賞について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 短歌のよさを表現する。 鑑賞と技法について理解する。（比喩、対比、象徴、文字、言葉選び等） 鑑賞の観点のプリントを見て、表現を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短歌のよさを、鑑賞の観点と結び付けて表現している。 イ② [ワークシート 観察] ○情景、心情、よい点を考える。 ア① イ① [観察・記録] ○よい点を書くとき、鑑賞の観点を基に鑑賞しようとしている。 ア② [観察・ワークシート]
第4時 鑑賞する	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞する短歌を決める。 短歌のよさを考える。 疑問を出す。 鑑賞文の例文を読む。 鑑賞文を書く。 互いに出し合った質問について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞する短歌のよさを「言葉選びのよさ」「響きのよさ」「発想のよさ」という点から考える。 他の人にも考えてもらいたい疑問を出す。 これから書く鑑賞文の内容や構成を理解する。 200字～300字で書く。 考えが出せるものについてだけ書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞の観点をいかして、短歌を味わっている。 イ② [ワークシート]

第5時 発表の準備をする	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の流れを理解する。 ・同じ短歌を選んだグループ（2、3人）で発表の分担をする。（情景、よい点、鑑賞文） ・説明の内容を打ち合わせ、ホワイトボードに書く言葉を決める。 ・疑問に対する他の人の意見も参考にする。 ・2分間を目安に発表の練習する。 	
第6時 (本時) 鑑賞し、感想を交流する	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞会を開く。 ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに発表する。 ・聞きながらコメントシートを書く。 ・コメントシートをもとに感想を発表する。 ・短歌の学習記録をノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の発表から学ぼうとしている。 イ③ [観察・ワークシート] ○まとまった感想を書いている。 イ② [ノート]

6 本時（全6時間中の6時間目）

(1) 本時の目標

短歌の鑑賞文を発表し、内容や表現の仕方について、自分の考えを広げる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標、学習の流れを確認する。 ・ワークシートのコメントの書き方を確認する。 ・感想の交流の仕方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書シートを用いて確認する。 ・グループでの発表の流れを確認する。絵や言葉の提示の仕方について確認する。 ・聞き手は、ワークシートにコメントを書き、最後に発表することを確認する。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌の鑑賞発表会を行う。 ・11首の短歌を1グループが2分を目安に発表する。 ・聞いている生徒はワークシートにコメントを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の観点を提示して発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ①挨拶する。 ②担当した歌を暗唱して紹介する。 ③情景を説明する。 (絵を提示してもよい。) ④歌のよさを、具体的な表現について一つの点を取り上げ、説明する。 A 言葉のよさ B 響きのよさ C 発想のよさ </div>	

	<p>・全グループの発表後、今まで感じなかった新たな魅力を感じた短歌と、その理由を発表し合う。</p>	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ＊A～Cいずれかのカードを提示してから説明する。 ＊ホワイトボードで着目した表現を提示する。 ＊解釈が広がる歌は、クラスの人意見を紹介して、自分たちの考えを話す。 ⑤鑑賞文を発表する。 ⑥挨拶する。 </p> <p>・聞く側は、ワークシートのメモ欄に、提示された言葉をメモするくらいでよい。発表を聞くことに集中する。 ・最初に多くの人を選んだ短歌と違う短歌が選ばれていることから、鑑賞の感想を交流したことで、短歌の世界をより広く味わえたことに気付く。</p>	<p>○鑑賞の発表から、短歌に描かれた心情や情景について、自分の考えを広げている。 イ③〔観察・ワークシート〕</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>・学習の振り返りをする。</p>	<p>・ノートに単元をとおして学んだことを書く。</p>	

7 板書計画

	短歌	担当	前	後	
1	・	・	2		
2	∴	∴	4		
3	∴		8		
4	∴		2		
5			5		
∴			7		
9			6		
10			4		
11			6		

発表順 (貼っておく)

新しく発見したよさ
 気付かなかった魅力

□ 鑑賞文

□ 疑問とその答え (なくてもよい)

- ・ 言葉選び
- ・ 響き
- ・ 発想

カード ひとつだけ

□ 情景 一枚の映像として

□ 短歌の良さ ↓ ミニホワイトボード

短歌の鑑賞発表会